

八丈島



水産だより
10月号
2023年



にっぽん丸寄港



実った稲穂

10月7日、たんぼまつり（収穫の部）が開催されました。八丈島は伊豆諸島で唯一、稲作をしていた歴史があり、この文化の保存・継承のために毎年田植え体験が行われてきました。今年度は6月10日に親水公園で田植えが行われ、その時に植えられた苗は、雨風に負けず、大きく成長していました。収穫されたお米は精米した後、参加者の方々へ配付される予定です！これからの季節はまさに食欲の秋です。楽しみですね。

■ 最近の魚模様

8月上旬から始まった今年のムロアジ漁が、9月末に終了しました。昨年の総漁獲量は約1トンでしたが、今年度は約7.7トンでした。八丈島にムロアジが帰ってくる兆しかもしれません。ムロアジは、クサヤやムロ節等の原料に用いられ、島内の魚食文化を支える重要な魚のひとつです。来年、再来年と漁獲量が増え続けることを祈るばかりです。



ムロアジ（クサヤモロ）

■ JICA研修の様子



漁協の施設見学

8/31～9/1にかけて、独立行政法人国際協力機構

(JICA)による、インドネシア海洋水産相の行政官等を対象とした研修が、八丈島で実施されました。この研修は、インドネシアの離島域の漁業者や加工業者等、水産業従事者全体の能力向上を目的としています。

研修生達は、八丈支庁や八丈事業所の職員による、水産行政や試験研究に関する講義を受けた後、漁港施設や加工工場等の施設を見学し、充実した時間を過ごしていました。